

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「アウトドアシティえびの」ブランディング計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

えびの市

3 地域再生計画の区域

えびの市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

観光振興や交流人口拡大が大きな政策課題となる中、様々なアウトドア・アクティビティを核とした交流人口拡大の取組みは、本市の特徴を最大限に生かした施策効果の高い取組であり、アウトドア・ブランドの向上に資すると考えている。しかしながら、えびの市では、様々なアウトドア・アクティビティが楽しめる環境にあるものの、アウトドアに関する専門知識・人脈を有する人材や組織が育成されておらず、アウトドア愛好者への発信力・訴求力に乏しいため、その認知度は全国的に高くないのが実情であり、また、アウトドア初心者が気軽に訪れ、インストラクターの指導のもと様々なアクティビティを楽しむための拠点施設（ビジターセンター）が整備されていない。

また、今後、「国立公園満喫プロジェクト」の事業を推進する中で、アウトドアによる地域ブランド価値を高めることは非常に効果的であるため、専門的な知見や業務経験、人脈をもった民間人材からの助言やアドバイスが不可欠であり、さらにアウトドア企業との連携はアウトドアシティの認知度向上を図る上で大変重要である。

このように、アウトドアに着目した「アウトドアシティえびの」の実現による交流人口の拡大等に向けた総合的なまちづくりを進める上で、拠点となる施設の整備や専門人材の派遣の受入等が必要である。

今後、国の「国立公園満喫プロジェクト」の事業推進に合わせて新たな環境整備が行われる予定であり、これらの動きと連動し、アウトドア拠点施設を核に、専門的な知見や業務経験、人脈をもった民間人材からの実践

的かつ効果的な助言・アドバイスを生かしながら、アウトドア・アクティビティの更なる展開と市内外への積極的な広報・PRを行うことがより一層重要となっており、専門的なアウトドア活動の実施・普及が期待される団体への運営委託やアウトドア専門人材からの実践的・効果的なアドバイスの提供、集客力のある魅力的なアウトドアイベントの継続的な開催、都市部への積極的な情報発信等が課題となっている。

4-2 地方創生として目指す将来像

国民の祝日「山の日」の制定や2020年オリンピックの新競技「スポーツクライミング」の決定など、今後、登山などアウトドア・アクティビティに対する国民の関心の高まりが期待される中、本市では、我が国で最初に指定された霧島錦江湾国立公園内にあるえびの高原等を中心に登山やトレッキング、キャンプ、スケート、パラグライダー等の様々なアウトドア・アクティビティが活発に展開されるとともに、アウトドア雑誌「BE-PAL」と連携した各種イベントが定期的な開催されるなど、アウトドアによる市政発展に向けた大きなポテンシャルを有している。

特に、霧島錦江湾国立公園が環境省の「国立公園満喫プロジェクト」の指定を受けたところであり、今後インバウンド促進に向けた環境整備等に官民上げて取り組むこととしている。

また、平成25年4月の開設以来、200万人以上の来場者が訪れる市内で最も集客効果の高い「道の駅えびの」に隣接する場所に、現在、アウトドア・アクティビティの拠点施設（ビジターセンター等）の整備を進めており、8月オープン予定である。

このような状況を好機と捉え、上記の拠点施設を核に、本市の豊かな自然環境を最大限に生かしながら、これまで展開されてきたアウトドア・アクティビティの流れを更に加速化させるとともに、「アウトドアシティえびの」の実現に向けたより専門的かつ効果的な取組みを推進することにより、観光振興と交流人口拡大による地方創生を目指す。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 増加分 (1年目)	平成29年度 増加分 (2年目)	平成30年度 増加分 (3年目)	平成31年度 増加分 (4年目)
アウト ドア・ア クティ ビティ 利用者	0人	0人	100人	100人	300人
ビジタ ーセン ターに おける 物品等 売上額	0千円	0千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円
道の駅 えびの 売上高	421,452千円	28,548千円	30,000千円	30,000千円	40,000千円

	平成32年度 増加分 (5年目)	平成33年度 増加分 (6年目)	KPI増加分の累計
アウトドア ・アクティ ビティ利用 者	500人	800人	1,800人
ビジターセ ンターにお ける物品等 売上額	2,500千円	2,500千円	12,500千円
道の駅えび の売上高	50,000千円	0千円	178,548千円

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

自然豊かなえびの市の観光・交流スポットとして連日多くの来場者が訪れる「道の駅えびの」の敷地内に、アウトドア・アクティビティに触れ、楽しむための拠点施設を新たに整備し、アウトドアを含む観光情報の提供、各種アクティビティの紹介や受付、アウトドア用品のレンタルや販売等を行うとともに、アウトドアに関する専門的な知見、経験、ネットワークを有する専門家の派遣を受入れ、幅広くアクティビティ活動を展開する。

また、アウトドア・アクティビティを快適に行うための登山道等の整備や利用促進のための広報活動を行う。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

(1) 地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

①事業主体

えびの市

②事業の名称：

アウトドアシティえびの推進事業

③事業の内容

市内で最も集客効果の高い「道の駅えびの」に隣接して整備中のアウトドア拠点施設（ビジターセンター等）において、アウトドアに関する積極的な事業展開が期待できる団体に対し、アクティビティの受付や紹介、アウトドア用品のレンタル、関連商品の販売等の業務運営委託を行うとともに、アウトドア・アクティビティに関する知見や業務知識、人脈を有する専門人材の派遣を受入れ、実践的かつ効果的なアドバイスを受けることで市内でのアウトドア・アクティビティのさらなる展開・強化を図る。

また、アウトドアブランド価値の向上に繋がるような魅力的で話題性のあるイベントを開催するとともに、都市部への積極的な情報発信等を行うことにより、拠点施設と道の駅の誘客増加の相乗効果による交流人口の拡大と観光振興を通じた地域経済の活性化を目指す。

④事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

アウトドア拠点施設で提供するアクティビティの利用料金やアウトドア関連商品の受託販売、併設する飲食施設（カフェ）の売上等により自立自走を図る。

【官民協働】

行政はアウトドア拠点施設の整備や運営事業者の確保、総合プロモーション等を行い、民間事業者は拠点施設の運営やアウトドア・アクティビティの実施等を担うことにより、官民一体となって「アウトドアシティえびの」の実現を目指す。

【政策間連携】

現在整備中のアウトドア拠点施設と連携し、アウトドア活動の更なる展開・強化を図るとともに、本市のアウトドア環境の魅力を積極的に発信することで、観光振興や交流人口の拡大はもとより、アウトドア愛好者等の移住・定住の促進や「アウトドアシティ」としての本市のブランディング化が図られる。

【地域間連携】

県内の西諸地域（小林市、高原町）や隣県の近隣自治体（湧水町）と広域に連携して、それぞれの地域における自然環境や特性を生かしたアクティビティを紹介・実施することで、アウトドアシティの実現を図る。

【その他の先導性】

特になし

⑤重要業績評価指標 (KPI) 及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
アウトドア・アクティビティ利用者	0人	100人	100人	300人
ビジターセンターにおける物品等売上額	0千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円
道の駅えびの売上高	421,452千円	30,000千円	30,000千円	40,000千円

	KPI増加分の累計
アウトドア・アクティビティ利用者	500人
ビジターセンターにおける物品等売上額	7,500千円
道の駅えびの売上高	100,000千円

⑥評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

外部有識者等で構成する「えびの市まち・ひと・しごと創生推進会議」において検証し、ホームページで公表を行う。

【外部組織の参画者】

えびの市農業協同組合総務課長、えびの市商工会事務局長、えびの市観光協会事務局長、宮崎県西諸県農林振興局長、小林公共職業安定所長、宮崎県立飯野高校長、宮崎銀行飯野支店長、高鍋信用金庫加久藤支店長、鹿児島銀行えびの支店長、宮崎日日新聞えびの支局長、えびの市社会福祉協議会事務局長、えびの市自治会連絡協議会担当、えびの市地域婦人連絡協議会会員、えびの青年会議所理事長、公募市民

【検証結果の公表の方法】

検証後速やかに市ホームページ等にて公表

⑦交付対象事業に要する経費

・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 92,000 千円

⑧事業実施計画

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日（3ヵ年度）

⑨その他必要な事項

特になし

（2）地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

①事業主体

えびの市

②事業の名称：

「アウトドアシティえびの」の実現に向けた拠点施設整備計画

③事業の内容

市内で最も集客効果の高い「道の駅えびの」に隣接する場所に、利用者が気軽にアウトドア・アクティビティに触れ、楽しむための飲食施設を併設した拠点施設（ビジターセンター等）を整備し、アクティビティの受付や紹介、アウトドア用品のレンタル、関連商品の販売等を行いうほか、様々なアクティビティ活動の展開を図ることにより、アウトドアによる地域ブランド価値を高め、拠点施設と道の駅の相乗効果による交流人口の拡大と観光振興を通じた地域経済の活性化を目指す。

④事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

アウトドア拠点施設で提供するアクティビティの利用料金やアウトドア関連商品の受託販売、併設する飲食施設（カフェ）の売上等により自立自走を図る。

【官民協働】

行政は、アウトドアの拠点施設（ビジターセンター等）を整備し、その運営者の確保を行うとともに、「アウトドシティえびの」のブランド化に向けたプロモーション活動など各種支援を行う。

また、民間事業者は、アクティビティの開発を含むビジターセンターの運営やアウトドア関連商品の受託販売、飲食施設の運営等を行う。

【政策間連携】

えびの市の豊かな自然環境を生かし、アウトドア・アクティビティが活発なまちとしてメディアやSNS等への積極的な情報発信を行うことにより、「アウトドアシティえびの」としての認知度向上が図られ、観光振興や交流人口の増加が図られる。

また、本市への移住促進等に係るワンストップ窓口である「移住・定住支援センター」と連携し、空き家物件の紹介等を通じて市外からアウトドア愛好者を呼び込むことにより、移住促進が図られる。

⑤重要業績評価指標（KPI）及び年月日

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 増加分 (1年目)	平成29年度 増加分 (2年目)	平成30年度 増加分 (3年目)	平成31年度 増加分 (4年目)
アウト ドア・ア クティ ビティ 利用者	0人	0人	100人	100人	300人
ビジタ ーセン ターに おける 物品等 売上額	0千円	0人	2,500千円	2,500千円	2,500千円
道の駅 えびの 売上高	421,452千円	28,548千円	30,000千円	30,000千円	40,000千円

	平成32年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の累計
アウトドア・アクティビティ利用者	500人	1,000人
ビジターセンターにおける物品等売上額	2,500千円	10,000千円
道の駅えびの売上高	50,000千円	178,548千円

⑥評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

外部有識者等で構成する「えびの市まち・ひと・しごと創生推進会議」において検証し、ホームページで公表を行う。

【外部組織の参画者】

えびの市農業協同組合総務課長、えびの市商工会事務局長、えびの市観光協会事務局長、宮崎県西諸県農林振興局長、小林公共職業安定所長、宮崎県立飯野高校長、宮崎銀行飯野支店長、高鍋信用金庫加久藤支店長、鹿児島銀行えびの支店長、宮崎日日新聞えびの支局長、えびの市社会福祉協議会事務局長、えびの市自治会連絡協議会担当、えびの市地域婦人連絡協議会会員、えびの青年会議所理事長、公募市民

⑦交付対象事業に要する経費

①第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 30,000千円

⑧事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日（5ヵ年度）

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 誘客事業

事業概要：交流人口の増加及びアウトドア・アクティビティを楽しむ環境を充実させるために、登山道の維持管理等やメディアを活用した広報を行うもの。

実施主体：宮崎県えびの市

事業期間：平成 29 年度～平成 33 年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 34 年 3 月 31 日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

【検証方法】

外部有識者等で構成する「えびの市まち・ひと・しごと創生推進会議」において検証し、ホームページで公表を行う。

【外部組織の参画者】

えびの市農業協同組合総務課長、えびの市商工会事務局長、えびの市観光協会事務局長、宮崎県西諸県農林振興局長、小林公共職業安定所長、宮崎県立飯野高校長、宮崎銀行飯野支店長、高鍋信用金庫加久藤支店長、鹿児島銀行えびの支店長、宮崎日日新聞えびの支局長、えびの市社会福祉協議会事務局長、えびの市自治会連絡協議会担当、えびの市地域婦人連絡協議会会員、えびの青年会議所理事長、公募市民

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

	事業開始前 (現時点)	平成28年度 増加分 (1年目)	平成29年度 増加分 (2年目)	平成30年度 増加分 (3年目)	平成31年度 増加分 (4年目)
アウトドア・アクティビティ利用者	0人	0人	100人	100人	300人
ビジターセンターにおける物品等売上額	0千円	0千円	2,500千円	2,500千円	2,500千円
道の駅えびの売上高	421,452千円	28,548千円	30,000千円	30,000千円	40,000千円

	平成32年度 増加分 (5年目)	平成33年度 増加分 (6年目)	KPI増加分の累計
アウトドア・アクティビティ利用者	500人	800人	1,800人
ビジターセンターにおける物品等売上額	2,500千円	2,500千円	12,500千円
道の駅えびの売上高	50,000千円	0千円	178,548千円

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

検証後速やかに市ホームページ等にて公表